第１回まちづくり構想審議会資料

「（仮称）まちづくり構想 福知山」策定にかかる取組について

令和３年８月３日
福知山市 市長公室 経営戦略課

説明する項目

1. まちづくり構想策定の3つの方向性と4つのポイント

2. まちづくり構想策定に向けた主な取組

3. 市民懇談会について

1-①.まちづくり構想策定の3つの方向性

方向性（１）

20年後の福知山市民像を描いてから施策のあり方を導く、
バックキャスティング（将来の目標となる状態を想定し、そこを起点に現在を振り返って今何をするべきかを考える方法）の手法・考え方によって検討を進める。

方向性（２）

「2040年の長期ビジョン（仮）」と、長期ビジョンを踏まえた「施策の体系」（計画期間は５年間）からなる2層構造を基本する。
　また、戦略的なターゲット＆ゴールを設定し、従来型の網羅的なものとはしない。

方向性（３）

市が定める他の計画等の本構想における位置づけや関係性を明確にする。

1-②.まちづくり構想策定の4つのポイント

①市民参画による問題発見・問題解決のプロセスを重視した構想づくり

⇒市民懇談会等による市民の議論を基にした論点整理

（自治基本条例第16条「市民の参画のもと計画的な行政運営に努めなければならない」）

②従来の行政組織単位のまとめではなく、市民生活を起点とした施策体系の整理

⇒例えば、「健康づくり」分野では、スポーツや食事に関連した農業分野まで網羅するような想定

同様の発想で、各分野を横断的に整理

③市の取り組みとしての行政計画ではなく、市民全体で共有され、実行していく構想づくり

⇒すべての取組に、「市民が取り組むべきこと」「市が取り組むべきこと」などの実施主体を明示

（自治基本条例第24条「協働によるまちづくり」）

④実施段階において客観的な検証・改善を可能とするKPI（目標達成の度合いを定義する基準）の設定。（実施段階ではPDCAサイクルを有効に機能させるとともに、状況に応じ迅速に対応するOODAループ（※）も活用）

⇒計画策定後も、市民懇談会参加者等を中心とした市民による施策評価の実施

（※）OODAループ（ウーダループ）…Observe（観察）・Orient（仮説構築）・Decide（意思決定）・ Act（実行）の頭文字をとったもの。先の読めない状況で、観察（情報収集）から、すばやく最善の判断を下し、即座に行動を行う事を目的とする意思決定の方法。

2.まちづくり構想策定に向けた主な取組

①現在の総合計画である「未来創造　福知山」の成果検証

⇒成果検証による課題等を踏まえた今後の方向性を検討

②ペルソナを描き、2040年の未来像（長期ビジョン）を検討

⇒庁内PTで描いたペルソナ（※）を元に、そのペルソナで描いたような人物が2040年の福知山で暮らしていける、想いが叶えられるための社会的条件などから未来像の方向性を検討

（※）ペルソナ… 2040年の福知山で暮らしているであろう等身大の人物を設定したもの。架空ではあるが、具体的でリアリティのある人物像（年齢・性別・勤務先・趣味・家族・生活歴など）として描いたもの

③市民の思いを元にした計画づくり　《今回の計画づくりの中核的取組》

⇒市民懇談会で、上記ペルソナ像を参考にしながら、市民の目線や生活実感等を踏まえた課題を議論。各課題に対して、市民が自ら行うべきこと、地域・団体等で取組むべきこと、行政が行うべきこと、などの整理を行う。

3. 市民懇談会について

市民参画による開かれた計画づくりを推進するため、市民と共に創るまちづくり構想とすることを目的として「まちづくり構想策定 市民懇談会」を設置

無作為抽出された市民と市職員（3Fチーム）によって構成し、全体会（101人）と分科会（4分科会）で構成

市民懇談会

無作為抽出市民
（８２名）

若手市職員
（１６名）

福知山わかもの会議
（３名）

テーマごとに4つの分科会に分かれて議論

①安心して快適に過ごせるまち
②子育てのしやすさと学びのまち
③健康で生きがいのあるまち
④産業振興と発信力のある魅力のあふれるまち